双極性障害へのリハビリ介入

～とある理学療法士の視点～

理学療法士：羽山　由輝
介護福祉士：山口　翔

はじめに

今回の発表はノンフィクションですが個人情報保護の観点から個人が特定されるような情報は変更させて頂いてます

実践した心理社会的治療についてフォーカスした内容になっています

双極性障害とは？

- 双極性障害は、気分が高まったり落ち込んだり、躁状態とうつ状態などの病巣を繰り返す疾患
- 世界でおよそ100人に1人がかかる病気で男女差なし
- 若い人からご年配の人まで、幅広い年齢でかかる疾患
- 以前は躁うつ病

躁状態とは？

- 身体の調子や感情を含めて、すべての生命活動の基盤となっている、すなわち「生命感情」とも呼ばれるものが全体的に亢進する状態

うつ状態とは？

- 身体の調子や感情を含めて、すべての生命活動の基盤となっている、すなわち「生命感情」とも呼ばれるものが全体的に低下する状態

双極性障害の特徴

- 自殺企図が多い
- 制止が強い
- 過眠が多い
- 身体愁訴が少ない
- 幻覚、妄想を伴うことが多い

A様　女性　７０歳代

- ある病院で双極性障害のため入院中、医師から「精神状態悪化から食事摂取困難で低栄養状態となり、このままでは1ヶ月生命維持できない」と余命宣告され、環境を変えるべく、退院されて当施設へ入居されました

入居時の状態

- 食事量が非常に少ない
- 日常生活動作に強い拒否（入浴etc）
- とにかく動きたくないし、何もしたくない

リハビリ

心理社会的治療

①心理教育

②対人関係ー社会リズム療法

心理教育

疾患とその治療法について正しい知識を持つ

疾患および治療の必要性を受容する

今後のストレスを減らす方法を考える

気分の状態を自覚できるように援助するとともに、家族と共有する

対人関係ー社会リズム療法

対人関係療法はうつ病に対して、有効であることが証明されている精神療法

対人関係のパターンを変えることで行う療法

対人関係療法に社会リズム療法を付加した、対人関係ー社会リズム療法として発展

毎日のライフイベントの時間を記録し、現実的な目標時間を決めて、目標時間と実生活の差を修正していくというもの

現在の状態

- 食事量は少ない
- 日常生活動作への拒否は無し
- 体を自分で動かしてくれる
- 質問してくることがある
- 居室を出ることに拒否なし

良好な関係づくりのポイント

おわりに

- 私の視点を発表することにより、多職種連携での視点の違いに基づく意思疎通の不足や誤解を少しでも軽減できることを願います。
- 精神疾患のことを知ることで回りの人に対して優しい応対ができるようになるのではないかと考えます。

参考・引用文献

- 双極性障害　病態の理解から治療戦略まで　第3版
  加藤忠史　医学書院

- 自分でできる対人関係療法
  水島広子　創元社

- 患者さんとご家族のための双極性障害ABC
  加藤忠史　すまいるナビゲーター

ご視聴ありがとう
ございました